

2008年4月8日

メディア中毒度はマレーシアンがトップ！

-シノベイト・ヤング・アジア調査-

グローバル・マーケティング・リサーチ会社のシノベイトは、アジアに住む8歳から24歳の若者（日本を除く）を対象に、ライフスタイルに関する調査を実施いたしました。

主な調査結果

- 1) 1日に38時間分の活動！？
- 2) アジア地域で一番のメディア中毒はマレーシアン
- 3) 若者とのコンタクト・ポイントはスクリーン型メディア
- 4) 携帯電話は多機能でもっとも身近なメディアとして浸透
- 5) 電話での通話時間は一日1.6時間
- 6) タイの若者は一日に1時間以上もゲームに興じている
- 7) インドの若者は98%が「今の生活は幸せ」

◆調査概要

実施機関：シノベイト

実施時期：2007年10-12月実施

対象国(11カ国)： 香港・シンガポール・中国・韓国・台湾・マレーシア・タイ・インドネシア・フィリピン
オーストラリア・インド

対象者：上記対象国に在住する8歳から24歳までの男女

協賛：Microsoft Digital Advertising Solutions/MTV/SingTEI/Star TV/Yahoo!

1) 1日に38時間分の活動！？～メディアは飽和状態。一度にいろいろアクセスする若者たち～

アジアの若者たちは、1日に10時間メディアと接触し、実に38時間分の活動を行っていることがわかった。シノベイト香港のアソシエイト・ディレクターであるスザンナ・ラムはこう話す。「デジタル化社会はアジアの若者たちによって急速に推し進められています。若者たちはテレビを見ながら、電話で話したり、ラジオを聴きながらインターネットにアクセスしたりしています。携帯電話でメールを打ちながら、オンラインゲームに興じることもあります。こうしたことを、いっぺんに行っているのです。」

「彼らの注意は常に分断されていますから、マーケッターが彼らにメッセージを届けるのはとても難しいのです。同時に、彼らがいろいろなメディアに接触し、一日の大半を費やしていることは、マーケッターにとって良いニュースでもあります。」

2) アジア地域で一番のメディア中毒はマレーシアン

アジア地域でもっとも「メディア中毒」なのは、マレーシアの若者で、一日に 12.9 時間をメディア接触に費やしていた。僅差の 2 位はタイの若者で 12.8 時間、3 位は香港の若者で 12.2 時間であった。メディア接触時間には、インターネット接続時間、テレビ、DVD、ビデオ CD、を視聴する時間、新聞や雑誌を読む時間、ラジオを聴く時間が含まれている。

前年に比べて半数以上の人々がインターネットの利用時間が増加し、37%がより音楽を聴く時間が増加したと回答している。

3) 若者とのコンタクト・ポイントはスクリーン型メディア

15 歳から 24 歳の若者がもっとも熱中し、100%の注意力を注いでいるのは「インターネット」(31%)であった(75%程度の注意力では 38%)。これに対しテレビに 100%の注意力をもって接触しているのは 18%(75%程度の注意力では 31%)となっている。集中して視聴しているのはテレビよりもインターネットのようだ。

「彼らの注意を引こうとするのであれば、画面上にメッセージを送るのが最適でしょう。」とラムは語る。

「メディアについて彼らがどんな風に感じているかで、インターネットと携帯電話は必需品として最も評価が高い。携帯電話は「第三のスクリーン」として急速に人々の生活に浸透しています。」

対象者の 37%がインターネットなしでの生活は考えられないと答えており、29%が携帯電話なしでは生活が機能しないと答えている。

結論として、インターネットは最新の情報収集にもっとも最適であり、有益な情報・エンタテインメント・娯楽が詰まっていると考えられているようだ。テレビは娯楽やくつろぎのひと時を過ごすときには依然として若者たちにとって大きな役割を果たしており、対象者の 4 分の 1 が楽しむためにはテレビがいいと答えている。

4) 携帯電話は多機能でもっとも身近なメディアとして浸透

「携帯電話でどんな機能が使われているかがこのヤング・アジア調査で、明らかになりました。若者層に関する限り、携帯電話は一体型の携帯機器として浸透しています。アジアの若者たちの電話への依存度とあいまって、携帯電話は若年層を取り込もうとするブランドのメディアミックスにおいては、急速に必要な不可欠なものとなってきています。」とラムは語っている。

携帯電話の中でもっとも一般的に利用されている機能は SMS で 64%(インドネシアの若者においては 85%にのぼっている)、次いでカメラ機能で 55%であった。

おそらく、携帯電話の重要性が増していることについては、その他の機能の高い使用率を見てもわかる。8～24 歳の半数が携帯電話で音楽を聴いており、47%がゲームに興じ、26%がビデオ撮影をしており、19%がダウンロードをし、12%が携帯電話でインターネットにアクセスしている。中国ではこの傾向がさらに顕著で、22%が携帯電話でインターネットにアクセスしている。

将来どんな方法で音楽を楽しみたいかをたずねたところ、21%のアジアの若者たちが「携帯電話で」音楽を楽しみたいと答えている。

5)電話での通話時間は一日 1.6 時間

15～24 歳のアジアの若者たちは、平均して一日に 1.6 時間、毎日電話をかけている。そのうち、59 分間は自分の携帯電話を、残りの 38 分間は固定電話を使っている。もっともおしゃべりなのはタイの若者で一日に 2 時間 47 分電話で話しており、そのうち 2 時間以上は携帯電話を使っている。次いでおしゃべりなのはフィリピンとシンガポールの若者で、一日 2 時間以上電話の向こう側の人と語り合っている。

6)タイの若者は一日に 1 時間以上もゲームに興じている

「大人はときどき、若者は自分たちの世界に住んでいるといいますが、それはある意味正しいのです。」とラムは語る。「アジアの若者たちは、平均して 1 週間に 4 時間 23 分ゲーム(テレビゲームや携帯ゲーム、オンラインゲーム)を楽しんでいます。」

タイの若者をもっともゲーム好きで、一日に 1 時間(61 分)ゲームに費やし、次いでシンガポールが 59 分、香港が 56 分費やしていた。

7)インドの若者は 98%が「今の生活は幸せ」

若者たちに人生に関する重要な質問もしている。それは「あなたは現在幸せですか?」というものだ。

十代の不安をよそに、79%のアジアの若者たち(8～24 歳)が幸せだと答えている。もっとも幸福を感じている若者が多いのはインド(98%)であった。ついでフィリピン(92%)、インドネシア(89%)となっている。他方、幸福感が少なかったのは、韓国の若者で 13%が自分たちは幸せではないと答えている。次いで香港が 11%、台湾とシンガポールがともに 7%であった。

シノベイト・ヤング・アジアン調査について>>

シノベイト・ヤング・アジアン調査は 2006 年から一年に一度実施されており、アジア・パシフィック地域在住の 8 歳から 24 歳までの若者を対象に、メディア接触状況や、彼らの購買行動、娯楽などについて調査し、正確で信頼できる情報提供を行っております。

2007 年はオーストラリアが加わり、11 カ国で実施しました。

シノベイトについて>>

シノベイトは Aegis Group plc のマーケティング・リサーチ部門として、競争力のあるマーケティング活動を支援するための消費者インサイトを発信しています。シノベイトでは 5,800 人以上のスタッフが世界 57 カ国、121 都市に広がるネットワークを駆使し、顧客に必要なグローバル・サポートと総合的なマーケティング・リサーチ・サービスを提供いたします。

本件に関する問い合わせ

シノベイト株式会社

担当・山口

TEL 03-5408-5473

japan@synovate.com

www.synovate.com